

整形外科医に役立つ 高齢者リウマチ性疾患の知識

日本の少子高齢化により、リウマチ性疾患においても高齢者を診療する機会が増加している。高齢者では、臓器機能や代謝内分泌機能が低下しており、薬物代謝も低下するため、重篤な副作用が起こりやすい。また高血圧、糖尿病など様々な疾患の併存頻度が高くなり、心血管系イベントや悪性腫瘍や、その他の予期せぬ併発症も少なくない。加齢に伴う免疫機能、特に抗原特異的な免疫応答である獲得免疫能の低下は易感染性をもたらす。さらに、筋骨格系や運動神経の老化により運動能力は低下し、転倒や骨折を起こしやすい。これらの感染症や骨折の危険性はステロイドをはじめとする治療薬によりさらに増大し、積極的治療を行う上でのジレンマとなる。認知症も大きな問題であり誤薬やアドヒアランス低下を招く。高齢者ではこのように様々な問題があるが、そのなかでリウマチ性疾患をどのように速やかに診断し、フレイルに陥らないようにマネジメントできるかが重要な課題となっている。

本特集では、高齢者にみられる頻度が高いリウマチ性疾患および合併症について、臨床経験が豊富なエキスパートの先生方に解説いただいた。まずは高齢発症も増加している関節リウマチ、高齢発症関節リウマチとの鑑別が困難なことが多いリウマチ性多発筋痛症、さらに RS3PE、偽痛風、など関節症状がみられる疾患について、次に関節症状も少なくない筋炎や最近の疾患概念である抗アミノアシル tRNA 合成酵素 (ARS) 抗体症候群、血管炎症候群のうちで高齢者に多い巨細胞性動脈炎と顕微鏡的多発血管炎、また様々な臨床症状を呈する IgG4 関連疾患などの内科系のリウマチ性疾患についても、どのような疾患か、どのような臨床症状のときに疑うのかなどを解説いただいた。さらには、高齢者のリウマチ性疾患の治療時に特に問題となる骨粗鬆症や感染症のマネジメントについても別項で解説をいただいている、日常診療の一助となれば幸いである。

(田村直人)